

ほうでえ～

ありゃ～のう

周防大島町の話題

自分らしく最後まで生き抜くということ



「本人ができることを本人なりに努力することが一番。困ったときは役場や地域の人、民生委員などに相談を」と阪井先生



5月28日、大島文化センターにおいて、大島郡医師会主催による講演会が開催されました。「地域で暮らそう」と題し、精神障害者の住まいと暮らしを支える阪井ひとみ先生による講演がありました。

阪井先生は、心の病気や認知症はいつ誰がなるかわからず、病気がよくなっても住む家や地域の受け入れがなく長期入院を余儀なくされる現状を説明され、自らが管理するアパート等で暮らす方々の様子を紹介し、「住居を整えることで、その人の気持ちや生活が変わる、障害者らも住みたい家や地域で自分らしく暮らすことが大切」と訴えました。

最後に「誰も生まれた時は一緒。最期も一緒。偏見をつくっているのはみんな。みんながお節介になることで誰もが暮らしやすいまちづくりにつながる」と話され、社会の理解を呼びかけました。

みかん産地の担い手に



▲開講式であいさつする塾長の椎木町長

5月10日、みかん産地に新たな担い手を育成するために開催されている、「周防大島みかんいきいき営農塾」第16期の開講式が、安下庄の柑きつ振興センターで行われました。受講生は38名。毎月1回の講義で、みかん作りの基礎となる施肥、薬剤防除やせん定の方法などを1年間かけて学びます。

町内15郵便局との連携協定を締結

5月1日、大島庁舎において周防大島町と町内15郵便局との地域活性化包括連携協定の締結式が行われました。

協定は地産地消や健康増進、高齢者支援や災害対策など10項目わたり連携項目が記され、地域活性化に向けて幅広い分野で協働して取り組もうというもの。協定の締結にあたり椎木町長は「この協定で多岐にわたり連携が可能となる。力を合わせて安心・安全の確保に努めたい」と抱負を述べ、大島郵便局澤田敬志局長も「住みやすいまちづくりに貢献していきたい」と抱負を述べられました。



▶町内すべての局長が出席し締結式が行われました